



2017年 ソーラーカーレース鈴鹿 & Ene-1GP 結果報告

Team宮工 Facebookページ



太陽光だけを動力源とするソーラーカーの国際レース「ソーラーカーレース鈴鹿 2017」が、8月4日～8月5日に三重県鈴鹿サーキットで行われ、本校より18回目の出場となる「Team宮工(宮崎工業高校 自動車部)」は雨雲の中で行われた4時間耐久レースで36周を記録し、総合で10位・エンジョイ I クラス(高校生など18歳以下のクラス)で3位の成績を修め、3年連続表彰台に上がることができました。また、翌日6日に行われた「Ene-1GP(エネワングランプリ)」では、充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットを3周するタイムアタックレース「KV-40チャレンジ全国大会」と1時間耐久レースで競われる「KV-BIKEチャレンジ全国大会」に出場し、どちらも入賞こそ逃したものの上位の順位となる好成績を残しました。

報告1 「ソーラーカーレース鈴鹿2017」

昨年投入した新車を、より車体性能を引き出せるよう改良を重ねた「宮工MT-15」は確実に仕上がり、その独特な車体形状による高効率発電とロスのない小さい空力性能を生かすことで優勝も狙えるほどの期待が持たれました。しかしレース当日は朝から雨雲が広がり路面は終始ウェット状態。グリップの小さい濡れた路面においては安定性能に不安を抱えながらも序盤は快調なペースで上位を走行し、1時間経過時点ではトップ争いを展開しました。発電電力のほとんど得られない状態では搭載バッテリーの電力に限りがあるため、電力温存のためペースを落とし始めた2時間経過時点で、強い雨が降り始めてスピン～コースアウト。2コーナーサントラップからどうにか脱出したマシンはピットインし、タイヤ交換とドライバー交代を済ませレース復帰。それからは電力温存・我慢の走行を続け様子を窺い、レース終盤には全車が電力不足で後退する中、安定した走りで総合3位表彰台も見えてきましたがその矢先、左前輪のパンクにより緊急ピットイン。敏速な作業でタイヤ交換を済ませ速やかにコースへ送り出したものの4時間のレースはそこで終了。結果は総合での表彰台は逃したものの、最後まで諦めず全員でレースを戦った結果、総合10位・エンジョイ I クラス3位となり今年もどうか表彰台に上がることができました。



大会リザルトは公式HPにて・・・ http://www.suzukacircuit.jp/solarcar_s/outline/

報告2 「Ene-1GP・KV-40とKV-BIKE」

KV-40は今年で6回目の挑戦。1年間かけて制作した新車により昨年の高校生クラス3位以上の好成績を期待しましたが、ブレーキシステムのトラブルにより電力をロスし昨年と同等・合計24分ほどの平凡なタイムに終わり総合13位(高校生6位)。総合順位は振るわなかったもののターゲットタイムに一番近かったことで「パワーアカデミー賞」1位となり表彰されました。また、今回初出場となったKV-BIKEでは、宮工自動車部始まって以来の2輪車ということで試行錯誤を繰り返しながら車体を作り上げ、手探りの状態でレースを進め、最後は電力不足でマシンを押して周回する場面もありましたが、終わってみれば総合6位で高校生4位とクラス入賞にあと一歩という好成績を残しました。



大会リザルトは公式HPにて・・・ http://www.suzukacircuit.jp/ene1gp_s/

~~ Team宮工 メンバー生徒の考察と感想 ~~

今回6回目出場の「Ene-1GP」では、「KV-40」と「KV-BIKE」どちらも1年かけて新車を製作し、どうにか完成させトラブルなく走りきることができました。どちらも2年生の運転で3年生がサポートし、先生に頼らず自分たちの力でレースを進めました。どちらも無事に完走でき、来年のソーラーカーレースに向けて自信ができました。来年はチームとしてさらに記録更新を目指し、後輩達が総合上位入賞と高校生部門優勝できるように車体改良に努めたいです。

ソーラーカーレース鈴鹿では3回目の「4時間耐久レース」となり、これまでの経験と先生のアドバイスを活かし、雨やバンクなどのトラブルも乗り越え無事にレースを終えることができました。昨年からの新しいタイプの車両は、優勝を狙えるペースでの連続走行も可能で、実際にトップを走ることもできました。雨によるスピン〜コースアウトやバンクのトラブルが無ければ確実に総合3位とクラス優勝を納めることができただけに悔しい結果となりましたが、最後まで諦めず全員で戦ったことで結果も残り、高校生(エンジョイIクラス)で3位表彰台に上がることができ達成感を得ることができました。



~~ サポート企業・報道機関 ~~

ご支援・応援して頂きました皆様、大変ありがとうございました。今後もソーラーカーレースをはじめとするエコ電気自動車競技への取り組みを継続し、「もの作りの技術」「電気自動車の先端技術」を身に付け、「省エネ・環境問題」への意識向上に努めていきます。



取材いただきありがとうございます。

「Team宮工」は皆様からのご支援をお待ちしております。よろしくお願いいたします。